「交通事故死ゼロを目指して」横断幕を寄贈いただきました

福岡市西区在住の高木博子さんから交通事故防止啓発用の横断幕を寄贈いただきました。

高木さんは、３年前に起きた国道210号での事故で、ご子息を亡くしたことから、「息子の死を無駄にしたくない。これが交通事故防止の一助となれば」との想いで横断幕の寄贈の申し出をいただきました。

遺族の強い願いがこもった寄贈を受け、役場庁舎の壁面に掲示しています。

玖珠町では、４月に交通死亡事故が２件発生しました。

交通死亡事故ゼロを目指し、警察などの関係機関と連携して、交通安全の推進に尽力していきます。

問 基地・防災対策課　基地防災班　☎(72)1891

かんきょう情報 第231号

問 住民課　環境班　☎(72)1137

ごみ集積所は、利用者の皆さんで常に衛生的に管理しましょう。

ごみ集積所は利用する皆さんが、定期的に清掃をしてきれいに管理していただいていますが、カラスや猫などからの「ごみの飛散被害」の声を聴きます。

カラスによる被害を防止するには、地域全体で取り組むことが大切です。

ごみの出し方を工夫することで被害を防止することができます。その対策の一部をご紹介します。

1 生ごみを減らす

料理をするときに生ごみを減らす工夫をしましょう。また、食べ残しをしないことも効果的で、ごみの減量につながります。

2 防鳥ネットを使用する

カラス防除器具としては、『防鳥ネット』が有効な手段のひとつです。目の細かいネットに重石をつけると効果がUPします。ただし、ごみ袋がネットからはみ出していると効果がありません。

3 生ごみを隠して排出する

カラスは主に視覚で「えさ」を探し、特に赤っぽいものや濡れたものを狙います。赤いものは肉、濡れたものは魚の肉など、高タンパク質の栄養価の高い食べ物に出会う目印になっているためです。そのため、**生ごみだけを新聞紙や紙袋で包むなど、中身が見えないようにして排出する**ことも効果的です。

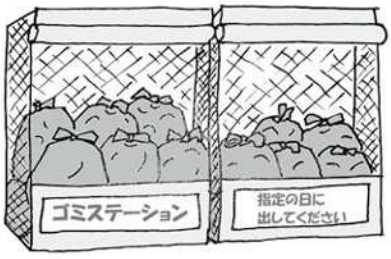
4 ごみは収集日当日の朝に出す

ごみを前日に出すとカラスに狙われやすくなります。また、夜間は猫などの被害にあうこともあります。ごみは収集日当日の朝に出してください。

町では、ごみの散乱対策として補助事業を推進しています。

＊収集箱などを設置すると、ごみの散乱やごみが道路上に飛ばされるなどの交通の妨げを防ぐことが出来ます。

【ごみステーション設置事業補助金】

地域でごみ集積所の整備を行う場合（利用者５世帯以上）

対象となるもの		補助額
カラスネット		購入費の１／２以内（最高限度額は　2,000 円）
収集箱	既製品	購入費の１／４以内（最高限度額は 20,000 円）
	業者製作	製作費の１／４以内（最高限度額は 20,000 円）
	自主製作	材料費の１／２以内（最高限度額は 10,000 円）